

山形市の統一的な基準による財務書類（令和5年度 一般会計等）概要

令和5年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において市の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	1973億7,751万円	1 (1) 地方債 1000億9,573万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	1648億8,951万円	(2) 退職手当引当金 134億4,637万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	8億938万円	(3) その他の固定負債 101億7,863万円
	(4) 投資その他の資産	451億3,936万円	2 (1) 賞与等引当金 10億1,738万円
2 流動 資産	(1) 現金預金	36億6,794万円	(2) その他の流動負債 104億2,514万円
	(2) 基金、未収金など	46億5,656万円	負債合計 1351億6,324万円
資産合計		4165億4,027万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額） 純資産合計 2813億7,703万円
			負債及び純資産合計 4165億4,027万円

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	36億4,369万円
本年度資金収支額	△9億901万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	36億1,140万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△29億3,683万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△15億8,359万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	9億3,326万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）	36億6,794万円

③ 純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	2923億3,685万円
本年度変動高	△109億5,982万円
△純行政コスト	△1077億477万円
財源 (町税、地方交付税、 国・県補助金)	935億8,365万円
資産形成への充当	0
その他	0
本年度末純資産残高	2813億7,703万円

市の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和6年3月31日現在人口 #### 人）

資産 = 173万円 負債 = 56万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 67.6%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 有形固定資産減価償却率（資産の老朽割合）・54.2%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※ 令和5年度末現在：償却資産取得価額等： 3664億3,165万円 減価償却累計額： 1986億5,922万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）…… 48.0%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

令和5年度財政運営の総括

① 業務活動収支 36億1,140万円 ⇒ 堅調な財政運営

② 投資活動収支 △29億3,683万円（基金積立、資産形成）

③ 財務活動収支 △15億8,359万円（将来世代の負担の軽減）

①～③の合計である令和5年度の資金収支は △9億901万円

前年度資金残高との合計は 36億6,794万円

② 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	1090億4,335万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	167億1,818万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	446億2,252万円
その他の業務費用 支払利息など	10億2,357万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	466億7,908万円
経常収益	34億5,367万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	1055億8,968万円
臨時損失 災害復旧費など	22億5,118万円
臨時利益 資産売却益など	1億3,609万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	1077億477万円

● 4つの財務書類の公表について

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しています。

● 財務書類作成に当たって（効果）

財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られています。



山形市の統一的な基準による財務書類（令和5年度 全体会計）概要

令和5年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において市の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	2242億7,887万円	1 (1) 地方債 1805億3,713万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	3350億7,973万円	(2) 退職手当引当金 172億2,490万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	154億5,734万円	(3) その他の固定負債 766億2,889万円
	(4) 投資その他の資産	145億6,364万円	2 (1) 賞与等引当金 16億367万円
2 流動 資産	(1) 現金預金	196億3,900万円	(2) その他の流動負債 212億3,484万円
	(2) 基金、未収金など	82億2,097万円	負債合計 2972億2,943万円
資産合計		6172億3,956万円	負債及び純資産合計 6172億3,956万円

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	188億9,652万円
本年度資金収支額	△1億9,078万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	114億2,444万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△63億2,790万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△52億8,732万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	9億3,326万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）	196億3,900万円

③ 純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	3306億5,054万円
本年度変動高	△106億4,040万円
△純行政コスト	△1549億8,976万円
財源 (町税、地方交付税、 国・県補助金)	1411億9,493万円
資産形成への充当	0
その他	0
本年度末純資産残高	3200億1,013万円

市の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和6年3月31日現在人口 240,485人）

資産 = 257万円 負債 = 124万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 51.8%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 有形固定資産減価償却率（資産の老朽割合）・49.8%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※ 平成29年度末現在：償却資産取得価額等： 6924億162万円 減価償却累計額： 3445億7,458万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）…… 92.9%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

令和5年度財政運営の総括

① 業務活動収支 114億2,444万円 ⇒ 堅調な財政運営

② 投資活動収支 △63億2,790万円（基金積立、資産形成）

③ 財務活動収支 △52億8,732万円（将来世代の負担の軽減）

①～③の合計である令和5年度の資金収支は △1億9,078万円

前年度資金残高との合計は 196億3,900万円

② 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	1778億9,290万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	252億8,668万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	618億439万円
その他の業務費用 支払利息など	28億57万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	880億126万円
経常収益	251億899万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	1527億8,391万円
臨時損失 災害復旧費など	25億11万円
臨時利益 資産売却益など	2億9,425万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	1549億8,976万円

● 4つの財務書類の公表について

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しています。

● 財務書類作成に当たって（効果）

財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られています。



※表中、表示単位未満は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

山形市の統一的な基準による財務書類（令和5年度 連結会計）概要

令和5年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において市の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
1 固定資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	2335億5,266万円	1 固定負債 (1) 地方債 1920億6,804万円 (2) 退職手当引当金 180億1,008万円 (3) その他の固定負債 766億5,647万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	3350億7,973万円	
	(3) 物品、ソフトウェアなど	204億7,414万円	
	(4) 投資その他の資産	158億1,443万円	2 流動負債 (1) 賞与等引当金 16億7,277万円 (2) その他の流動負債 226億6,423万円
負債合計		3110億7,158万円	
2 流動資産	(1) 現金預金	166億2,976万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額） 純資産合計 3241億456万円
	(2) 基金、未収金など	136億2,542万円	
資産合計		負債及び純資産合計 6351億7,614万円	

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	207億5,437万円
本年度資金収支額	△50億6,200万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	56億3,334万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△67億3,138万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△39億6,396万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	9億3,458万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）	166億2,976万円

③ 純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	3397億3,523万円
本年度変動高	△156億3,067万円
△純行政コスト	△1887億3,525万円
財源 (町税、地方交付税、 国・県補助金)	2071億7,534万円
資産形成への充当	0
その他	0
本年度末純資産残高	3241億456万円

市の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和6年3月31日現在人口 240,485人）

資産 = 264万円 負債 = 129万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 51.0%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 有形固定資産減価償却率（資産の老朽割合）・49.8%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※ 平成29年度末現在：償却資産取得価額等： 7199億4,522万円 減価償却累計額： 3585億7,534万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）…… 96.0%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

令和5年度財政運営の総括

- ① 業務活動収支 56億3,334万円 ⇒ 堅調な財政運営
 - ② 投資活動収支 △67億3,138万円（基金積立、資産形成）
 - ③ 財務活動収支 △39億6,396万円（将来世代の負担の軽減）
- ①～③の合計である令和5年度の資金収支は △50億6,200万円

前年度資金残高との合計は 166億2,976万円

② 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	2164億642万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	277億8,368万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	664億6,930万円
その他の業務費用 支払利息など	32億128万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	1189億5,216万円
経常収益	298億9,425万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	1865億1,217万円
臨時損失 災害復旧費など	25億1,930万円
臨時利益 資産売却益など	2億9,622万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	1887億3,525万円

● 4つの財務書類の公表について

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しています。

● 財務書類作成に当たって（効果）

財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られています。

